

# 監訳者の言葉

“ECMO in the Adult Patient”というコンパクトなマニュアル本を、ある海外の知人からいただいた。その本は、私にECMOを教えてくれたGiles Peek先生をはじめとした、世界のECMO界をリードする著名な先生方が著者になっており、わかりやすい図と簡潔明解な説明、かつ読み物としての性質もあり、とにかく懸命に読んだ。そして、すぐに日本語訳したいと感じた。

ECMOの基本技術は、私のMentorであるミシガン大学のRobert H. Bartlett名誉教授が1970年代に確立して以来40年間変化していない。その間、遠心ポンプや膜型人工肺を含めたデバイスの進化、そしてECMO管理技術全般の進歩と経験の蓄積により、長期間安定した呼吸・循環補助が可能となり、救命率が向上し、より多くの施設で導入されるようになった。私が米国と英国でECMOを学んでいた'90年代は、まだローラーポンプとシリコンラバーの大きな人工肺を使った複雑な「機械」で、とても簡単に搬送に用いることはできなかった。しかし、今では高性能かつ片手で持ち運べるコンパクトなデバイスになった。マニアックな治療法から標準的な治療法へと変化し、最近では導入場所が病院内から外に出て、オンサイトで心肺蘇生にチャレンジするPre-hospital eCPRも試みられるようにまでなったわけである。

ELSO (Extracorporeal Life Support Organization) は、ミシガン大学に拠点を置く世界的なECMOの登録・研究・教育機構であり、2019年にちょうど30周年を迎えた。今では世界中に支部が発足し、北米、ヨーロッパ、南米、アジア・太平洋、インド・中東・アフリカと、南極を除いた地球全体をカバーしている。それにより、各国は北米やヨーロッパ先進国のレベルを目指して急速な成長を遂げている。もちろん日本には世界をリードする技術力・研究力があるし、多くの献身的な医療人が患者のために日夜努力している。しかしわれわれは現状に甘んじてはいけない。常に前に進まなければならない。

本書には、ECMOの基本技術のエッセンスが述べられている。医師だけでなく看護師、臨床工学技士、理学療法士など、ECMO診療や研究に携わるすべてのの方々に読んでいただきたい。

*“It's all about patient” (すべては患者のために)*

*-Robert H. Bartlett-*

ミシガン大学名誉教授

2020年2月

日本医科大学付属病院 外科系集中治療科  
市場晋吾